

## フィンドレー大学への協定留学 月例報告書 (8月分)

静岡文化芸術大学 デザイン学部 デザイン学科 3年 桑原大樹

本日は2022年9月5日。本報告書の最終締め切り日である。楽しさ、辛さ、忙しさに追われ、ギリギリになってからキーボードをぶっ叩いている。この報告書は様々な立場の人が目にするため、丁寧な言葉遣いで分かりやすくということであるので、最低限公序良俗に配慮しつつ、しかしこの1か月で学んだ「人の目を気にせず自分のやりたいようにやる」という、アメリカスタイル（私は日本でもそんな感じだったけど）を採用し執筆しようと思う。

2022年8月8日午後6時、予定より2時間遅れてデトロイト空港に到着した。待ちに待ったアメリカでの留学生活が、ついに始まるのである。大学からの空港への迎えが45分遅れて到着し、さらに大学へ向けて3時間遅れて出発したため、（海外なんてこんなもんか）と思いつつ、日本の家を出て30時間後、予定より6時間ほど遅く、深夜0時に大学にたどり着いた。そして、飛行機の中でうまく眠れなかったことや時差ボケなどが重なって、人生最高記録ではないかというほどの眠気の中、あろうことかウェルカムパーティーが始まったのである。保険の提出や家の使い方の説明などを済ませ、2時に家に到着。そこからシャワーを浴びたり荷解きをしたりして4時に就寝。翌朝は9時に集合だった。到着翌日にして、すでに限界であった。

そこからの1週間は毎日9時から21時で、様々なオリエンテーションを受け続けた。さらに、その合間には履修登録や授業料の支払いの手続きも行わなければならなかった。詳細は省くが、支払い手続きなどは基本的にスムーズにいかない。多くの日本人学生が手続きに不具合を抱え、そのすべての解決を英語で迫られる日々が続く。オリエンテーション中あたりを見渡すと、異国の地へ到着したばかりでろくに休みももらえずに、完全英語で難解なオリエンテーションを無限に受け続け限界を迎えた日本人たちが、この世に生を受けた直後さながらに不安定な首を懸命に保持しようと努めている姿が伺えた。

しかしそういった過酷な環境に、我々は少しずつ順応してゆく。「あらゆる事務手続きを英語でしなければならない」と聞くと、以前の私同様、（自分には無理かも）と思ってしまう人もいるかもしれない。だが、意外と何とかなるものだ。その「何とかしなきゃ」という苦労の中で、英語力がメキメキと音を立てて成長するのを感じることができた。アメリカへ来てよかったと初めて感じた瞬間であった。それにオリエンテーションとはいえ、スポーツ会や新入生歓迎パーティ的な楽しいものもある。そういった機会を通して大勢のアメリカ人や他国からの留学生と話す機会を得た。大抵は向こうから「君もどう？」と誘ってくれるし、こちらの片言の英語を聞くと、「留学生？どこから来たの？」と聞いてくれる。そして、こちらが「日本です。」と答えると、割と反応がよい。日本食はアメリカでも有名だし、「日本人はマナーがいい」というイメージもあるようだった。アメリカ人の10人に1人くらいは、日本人と聞いただけで「Oh, I love Demon Slayer!!

(鬼滅の刃)」といった感じだ。流暢な日本語で「炎の呼吸 奥義！玖ノ型 煉獄！」と言うだけで、「Yeahhhh! Let's goooooo!!!」となるし、さらに別の日本人が合わせて「破壊殺・滅式！」なんて言おうものなら卒倒してしまう。たとえアニメに興味がなくとも、渡米の際は最低限、鬼滅の刃を履修しておきたい。違う。言いたいのはこんなことではない。私が言いたいのは、とにかく環境は厳しいがそれこそが留学だし、きちんと英語力の上昇が感じられるということだ。



しかし本当に大変なのは授業が始まってからであった。忙しすぎるという意味ではない。私は英語学習者専用の授業を取っているのだが、難易度や課題の量からいっても、余裕のある生活を送れている。モンハンで言ったらアオアシくらい余裕だ。だが、英語学習者専用ということは、クラスにアメリカ人はいない。

ネイティブの英語話者は先生だけだ。つまり「ネイティブと話す」という、留学の本目的ともいえる利点は、自ら掴みにいかなければ獲得できないのである。もちろんこれは、高難度クエストだ。ラージャンくらい難しい。考えてもみて欲しい。日本語の得意でないアメリカ人留学生をわざわざ誘って居酒屋に行きたいだろうか。アメリカ人だってアメリカ人同士で楽しくおしゃべりしていたほうが気が楽に決まってる。であるからして、まさに友人と呼べるような「仲のいい人」を作るのは意外と困難だ。流石にフレンドリーなアメリカ人、私の名前を覚え、すれ違いざまに「Hey, Taiki! What's up?」と言ってくれるだけの知り合いはたくさん作ることができたが、いざ放課後や休日に遊ぶような友人となると、けっこう苦勞する。

重要なのは、「誘われたら断らないこと」と「自分から積極的に話しかけに行くこと」だと感じた。日本の大学の食堂で知らない奴が急に「一緒に食べていい？」って言ってきたら「え…？あ…え？誰？」って感じだが、アメリカではそうではない様子だ。日本人の本能が警告を出していたとしてもそれを無視して、積極的に話しかけに行った方がいい。

そんなこんなで、アメリカを中心に世界各国出身の友人をたくさん得た私は、本当に充実した1か月を過ごした。ハウスメイトには「モノホンのアメリカバーガー」を食べに連れて行ってもらったし、「世界観にはそこまで拘ってないけどディズニーランドみたいな遊園地」へも行き、イッテQにも出たことのある、速さや高さなどで世界記録を10個ほど持つジェットコースターにも乗った。



留学を充実させられるかどうかは自分次第であると、今気づくことができてよかった。残り8か月の価値は、すべてが僕自身にかかっている。

まさかこんなに長くなるとは思わなかった。写真が小さいのは、文字を書きすぎたせいである。次から気を付けます。